

2020年10月23日

仙台ターミナルビル株式会社

東日本旅客鉄道株式会社仙台支社

体験型観光農園施設の工事着工と名称の決定について

- 仙台ターミナルビル株式会社(宮城県仙台市 代表取締役社長:松崎 哲士郎)は、2018年春より仙台市が主導する東日本大震災からの復興事業である「仙台市集団移転跡地利活用事業」(仙台市荒浜地区)に参画しています。以降2021年3月の「体験型観光農園」開業に向け土壌改良や圃場整備など準備を進めてきましたが、この度園内の様々な施設の建設に着工いたします。
- 体験型観光農園は「一年を通し旬の果物の摘み取り」「高品質な果物を市中等へ供給」「東部沿岸地域の農業生産者や復興事業に参画されている事業者との連携」「旬の果物、野菜を使ったカフェ・レストランと直売所の運営」をコンセプトとしております。
- 体験型観光農園の名称を「JR フルーツパーク仙台あらはま」といたします。

1 園内施設建設工事着工について

体験型観光農園内に以下の施設の建設を予定しております。これらの施設は11月から工事着工いたします。

- (1) 総合施設棟(直売所、カフェ・レストラン、加工体験室)
- (2) 研修棟(教育、視察旅行の際に多目的に活用できる施設)
- (3) 事務所棟

[参考1] 仙台市若林区荒浜 体験型観光農園 概要

- (1) 所在地・面積 仙台市若林区荒浜地区(集団移転跡地)・約11.0ha (うち圃場面積 7.5ha)
- (2) 事業内容 ①観光果樹園事業 ②加工体験・6次産業化支援事業
③販売・飲食・各種イベント事業 ④貸農園事業
- (3) 栽培品目 いちご、ブドウ、リンゴ、ナシ、ブルーベリー、イチジク、キウイ、スグリ

2 「体験型観光農園」のコンセプト

(1) 「一年を通し旬の果物の摘み取り」

丹精こめて育てたいちご・ブドウ・リンゴなど8品目156品種を、一年を通して摘み取り体験していただけます。2021年はいちごとブルーベリー、2022年以降はブドウ、リンゴ、ナシ、イチジク、キウ

イ、スグリも含めすべての果物を楽しんでいただけます。

(2)「高品質な果物の市中等への供給」(販売・ホテルレストラン等への食材提供)

高品質な果物を市中へ出荷するとともに首都圏等への販売にも取り組みます。また海外への出荷も目指します。

(3)「地域の農業生産者や東部沿岸地域の復興事業に参画している事業者等と連携」

“JR フルーツパーク仙台あらはま”を拠点として地域の農業生産者や東部沿岸地域の復興事業に参画されている事業者様と連携し、震災復興・地域連携・農業振興に貢献してまいります。

(4)「旬の果物や野菜を使ったカフェ・レストランと直売所の運営」

ホテルメトロポリタン仙台のシェフがプロデュースし、農園と地域の旬の食材をメインとした料理やデザート、ドリンクを提供いたします。直売所では周辺の農業事業者の生産する野菜や当園の果物の他に米や味噌等の販売を予定しております。

3 名称とロゴ

(1)「JR フルーツパーク仙台あらはま」を名付けた理由

JR 東日本グループ初の果物の観光農園であること、県内・全国・世界中の方に所在地を分かりやすくイメージしていただけるよう名付けました。

ロゴマークについては、果物をイメージした円の中に、太平洋に昇る日の出、光かがやく海、果物畑を配置。地域・自然・作物が一体となり、実り多い場所となるよう願いをこめました。

日本語表記



英語表記



(2)カフェ・レストラン

カフェ・レストランの店名を「LES POMMES」(レ・ポム : フランス語リンゴ)といたします。

仙台市民の方を始め県内外のお客様に何度も足を運んでいただけるようなお店を目指します。

(3)直売所

直店名を「あらはまマルシェ」といたします。

「地域の方に親しまれ」「位置が分かりやすい」名前ということで名付けました。

4 開園に向けた取組み

(1) いちご初収穫

11月下旬から収穫予定のいちごは、宮城県産の「にこにこベリー」と「もういっこ」の2品種です。2021年の3月の開業に先立ち、近隣の学校関係などへの摘み取り招待やエスパル仙台での販売イベント、ホテルメトロポリタン仙台レストランでのフェア等を企画しております。

(2) 園内全体図<イメージパース>



(3) 総合施設棟<イメージパース>



(4) 収穫カレンダー（生育後のイメージ）



5 JR 東日本グループの取組み

JR 東日本グループでは地域活性化に向けた取組みの一環として農業事業にも取組んでおり、これまで株式会社 JR とまとランドいわきファーム(2014年設立、1.7ha)と株式会社 JR 新潟ファーム(2016年設立、9ha)、株式会社 JR アグリ仙台(2017年設立、4.5ha)が農業生産を行っています。

これらは地元の農業者の方々との共同出資による農地所有適格法人であり、今回は仙台ターミナルビル株式会社の社員等が生産から販売までを行う JR 東日本グループとして初めての直営事業となります。

また JR 東日本グループは、首都圏に大きな販路を持ち、輸送ネットワークを活用した新幹線荷物輸送など地域連携の強化に取り組んでいます。

これからもグループ及びネットワークの強みを活かし、「地域製品のブランド化に資する6次産業化の推進」や「販路拡大に向けた商流・物流サービスの構築」等、今回の体験型観光農園をはじめとしたグループ農業事業を推進してまいります。

[参考2] 仙台ターミナルビル株式会社の農業事業の取組み

仙台ターミナルビル(株)は2016年より仙台市農業園芸センター再整備事業に参画し、運営しております。

《せんだい農業園芸センター(みどりの杜)概要》

(1)所在地 : 宮城県仙台市若林区荒井字切新田13-1

(2)面積 : [栽培面積]1.8ha

(3)事業開始 : 2016年4月1日(園芸センターリニューアルオープン4月29日)

(4)事業内容

①観光果樹園事業

- ・トマトハウス 約2,160㎡ ・ブドウ 約3,960㎡ ・ナシ 約3,069㎡ ・リンゴ 約1,581㎡
- ・ブルーベリー 約3,883㎡ ・イチジク 約1,500㎡ ・その他 直売・カフェ

②研修事業

- ・複合経営研修 : 農業従事者の方又は複合農業経営に興味のある方向けの研修
- ・果樹栽培研修 : 観光果樹園で果樹の栽培知識を学ぶ研修
- ・加工研修 : トマト等野菜の加工調理研修

③仙台市農産物生産促進支援事業

- ・仙台市が推進する、農業振興施策についての事業を受託し実践しています。
- ・受託事業「地産地消PR事業」「営農指導事業」「市民交流事業支援」「農業サポート支援」等